

授業改善のイメージ(英語科)

本年度の研究テーマ(2年次)

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成 ～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

授業改善を行う単元とその評価規準(思考力・判断力・表現力等)

1年 Lesson 2 My Hero 「マチュー先生とクラスメイトに自分のことをもっと知ってもらうために、自分のヒーローを紹介しよう。」	2年 Lesson 6 Friends from Singapore 「フィリピンの先生に大分県のよさをPRしよう。」	3年 Lesson 4 Bollywood Movies 「フィリピンの先生と日本や海外の映画事情について語り合おう。」
マチュー先生とクラスメイトに自分のことをもっと知ってもらうために、自分のヒーローについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	フィリピンの先生が大分県に来たいと思ってくれるように、大分県のよさについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	社会的な話題について自分の考えを深めるために、日本や海外の映画事情について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。

「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

(1) 大切にしたい見方・考え方の明確化

・英語科の「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関りに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」とされている。ここで言う「他者」とはコミュニケーションを図る相手(聞き手や読み手、話し手、書き手)である。その相手に配慮しながらコミュニケーションを図ることが求められており、学習者が目的や場面、状況などを意識し、簡単な情報や考えなどを理解したり、理解したことを活用して実際に外国語を使用しながら表現したり伝え合ったりする言語活動をより充実させ、「思考力・判断力・表現力」を育成していきたい。

(2) 「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

① 「見通し」をもたせる場面

・見方・考え方を働かせる発問の工夫

単元のゴールにコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定することにより、何をどのように表現するのか、学習者に見通しを持って取り組ませる。

・見通しを共有する場面の設定

単元の始めにゴールを提示したり、単元の途中でゴールを再度確認したりし、単元末のイメージを持たせる。また学習者がより具体的なイメージを持てるようにJTEやALTのモデリングを示す。

② 「振り返り」の場面

学習者がペアや班で言語活動を行う中で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に沿った内容(内容面)や表現(言語面)を工夫できているか振り返らせる。十分に表現できていない場合は全体で課題を共有し解決させる。また言語活動の中で見つけた友だちのいい表現や単元ゴールを達成するための現時点での学習者自身の課題点を振り返らせる。

(3) 昨年度、英語科では「読む」活動から「話す」、「書く」活動に繋げる統合的な言語活動を授業改善のテーマとして実践を重ねてきた。今年度は「読む」活動だけでなく、「聞く」活動から発信に繋げる授業展開も同様に研究していきたい。

評価方法の充実の方針

① 形成的評価(努力を要する生徒の把握)

ワークシートや行動観察、他者との交流の様子からBに達していない学習者の把握を行う。

㊦ 「聞くこと」に関して

・新出語句を口頭練習する時間をとるとともに、教師が意図的にクラスルームイングリッシュに新出語句を取り入れることで、音声で十分に慣れ親しませる。

・リンキング等の発音上の音声変化を積極的に指導する。

・音声を聞かせた後に、スクリプトを見ながらもう一度聞かせる時間を積極的に設ける。

㊧ 「読むこと」に関して

・読ませる英文に関する背景知識についてのスモールトークを行ってから読ませたり、段落毎に意味をとらせたりする。

・読解の根拠となった部分をペアやグループで話し合わせる。

・「語順お助けカード」を活用させる。

- ⑦「話すこと〔発表〕〔やり取り〕」「書くこと」に関して
- ・マインドマップで伝えたい内容を想起、精査させる。
 - ・用いたい表現を「Idea Box」から選ばせる。
 - ・「語順お助けカード」を活用させる。
 - ・内容や英語表現について、ペアやグループの級友の優れた点を参考にさせる。
 - ・「Opening-Body-Closing」の構成を意識させる。
 - ・新出語句の口頭練習の中に、単元で大いに活用し得る英語表現を予め入れておく。

②総括的評価

単元末に行うパフォーマンス課題に類似した題材でパフォーマンステストまたはペーパーテストを実施し評価する。「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている状況の評価する。また、「聞くこと」、「読むこと」は、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている状況の評価する。